



「前を向いて心ひとつに」

社会福祉法人 福岡市身体障害者福祉協会

会長
清水 邦之

昨年は世界中が新型コロナウイルスに翻弄され、経済活動はもとより日々の生活にまで影響を受けた大変な年でした。

また 国内においては長年続いた安倍政権に終止符が打たれ、新しく首相に就任した菅氏がその政権を引き継ぐこととなりました。菅首相には国民一人ひとりが安心して生活できる環境を早く取り戻せるよう知恵を絞り実現していただくことを切に願いたいものです。

さて 今年は昨年開催が延期となった東京オリンピック・パラリンピックが開催されるとのこと、IOC、JOCともに新型コロナウイルスに勝利したとの名目で開催機運を盛り上げようとしているようですが、そう簡単にはいかないように思います。状況を正しく見極め、みんなが安心して参加できる大会になつてほしいと思います。

福岡市では、現在次期保健福祉総合計画の策定に向けた会議が行われています。会

議は地域、高齢者、障がい者、健康の4分野に分かれて話し合わせ、各分野から出された意見に対する調整会議を経て、最終の計画案としてまとめられます。

各分野から出された各論の中には、近年異常気象により発生している大規模災害への対応や、新型コロナウイルス等の感染症対策なども盛り込まれることになっていきます。市では平成24年から「みんながやさしい・みんなにやさしいユニバーサル都市福岡」を掲げ、共生社会の構築に取り組んでいます。この次期保健福祉総合計画はまさにその根幹をなす計画であることから、当事者団体として、その計画づくりに積極的にかかわることが重要です。当事者からの意見をしっかりと伝え、理解してもらい、次期計画に反映していくために委員として参画しています。共に頑張って行きましょう。

今年は新型コロナウイルス感染拡大が続く中での年明けとなりました。ワクチン開発も進んでいるとのことですが、安全性はまだ担保されていません。感染から回復しても後遺症に悩んでいるとの話も聞きます。いつまでこの状況が続くかわかりませんが、感染しないことが一番です。みんなで声を掛け合いこの窮地を乗り越えましょう。

令和三年（2021年）元旦



謹賀新年



會長清水邦之

副会長 山本秀樹	副会長 明沼博
-------------	------------

副會長 永末 淑子

理 事 反 本 明 彥

理事 石橋 誠二

理 事 杉 紀 史

理事登本弘志

理事 太田 陽介

理事阿部矢都子

三
再
三
]

監 事 平 野 英 二 郎

監事 村越俊郎

平義員吉村展子

評議員 永田一志

評議員 江田 博

評議員
堀
浩一郎

評議員 平田 維英

評議員 高山智恵美

評議員 桃田 建幸

評議員 栗田 政三
評議員 栗田 政三

評議員 内田 久雄

評議員 篠塚 毅

評議員 江口久仁子



一般社団法人
福岡市視覚障害者福祉協会
会長 明治 博

明けない夜はない



謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

令和2年はオリンピックイヤーのはずでした。56年ぶりに日本で開催される、一大スポーツイベントを誰もが楽しみにしていたと思います。ところが、年が明けた途端にコロナ騒動に巻き込まれました。

私もそうでしたが、多くの人が甘く見ていたでしょう。令和3年を迎えても終息の目途さえ立っていません。仕事が減少しただけに留まらず、失業・廃業した仲間もいて、心が痛みます。ですが、下を向いてばかりでは何も変わりません。一人の治療家としてだけではなく、視覚障がい者として、そして、会の一員として何をしたら良いのかを考えて行動したいと思っています。

ときめきFukuoka 254号に、『始まりがあれば終わりがある』『明けない夜はありません』とありました。そうです。明けない夜はないのです！



一般社団法人
福岡市ろうあ協会
会長 山本 秀樹

コロナ禍のなか 新年を迎えて



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

旧年はコロナウイルス感染拡大により、テレビの福岡市長会見では、3回手話言語通訳がつき、命に関わる情報をもらえたことは喜ばしく思います。今後は全ての会見に手話言語通訳と字幕をつける合理的配慮を期待したいと思っています。

さて、厚生労働省が遠隔手話通訳導入にかかる補正予算を付けましたが、まだ全国的な普及に至っておりません。福岡市で生活するろう者の生活向上及び手話通訳者の感染防止の観点から、福岡市に速やかに遠隔手話通訳の導入が重要と考えます。昨年に続き、私たちの願いは、「いつでもどこでもどんな場合でも手話言語通訳を」「福岡市に手話言語条約を」「手話言語で話せる、使える社会資源の拡充を」など、多岐に及びますが、目標達成に向かって頑張っていきたいと存じます。会員の皆様のご健康とご多幸を祈念いたします。



特定非営利活動法人
福岡中失聴聴者支援福祉協会
理事長 永末 淑子

おしゃべりを 楽しみましょう



謹んで初春のお歓びを申し上げます。皆さま方には穏やかな新年をお迎えになられたことと存じます。

まだ、新型コロナウイルスの終息が見えない中で社会活動を維持していくには、一人ひとりが感染防止の意識を徹底することが肝要です。難聴協会では昨年8月、九州大学病院耳鼻咽喉科の松本希先生に「難聴と認知症の関係」について講演していただきました。難聴は、直接認知症を引き起こすわけではなく、脳に届く音の情報が減る為、聴覚に関わる脳が次第に退化し、認知機能が低下すること、また、社会的要因において難聴者はコミュニケーションが難しくなり、社会的に孤立すると認知機能が低下するため、補聴器や人口内耳で家族や社会との会話でコミュニケーションを維持することが大切との事でした。

本年も例会で友達に会い筆談をしたり、要約筆記の情報保障で様々な活動を楽しみたいと思います。本年も、皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。